

令和2年度

事業報告書

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日

社会福祉法人 津野町社会福祉協議会

事業実績の概要

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活困窮に陥ったり不安の中で孤立している住民への支援が必要となる一方、これまでの助け合いや見守りの方法にも工夫や配慮が必要となりました。また、多くの事業が中止や延期、内容の変更を余儀なくされ、それぞれ臨機に対応を行いながら、個別相談支援や地域福祉活動支援に取り組みました。

＜ 令和2年度重点的な取り組みに関する評価 ＞

1. 地域共生社会の推進体制づくり

地域福祉の拠点としての機能が不十分だったあったかふれあいセンターについて、町と協議をすすめ、次年度からの体制強化の準備を行いました。また、問題を抱える住民の相談に対しては伴走型支援を意識した個別支援に努めました。弁護士と連携して、法的手続きが必要なケースの援助や住民向けの法律相談、法律講座を行いました。

2. 地域が主体となる地域福祉活動の推進

新型コロナウイルス感染症対策のため地域サロンに対し長期間の開催自粛を要請し、また、小地域ふくし座談会等についても開催の見送りを行うなど小地域福祉活動推進には大きな影響が出ました。

一方、小地域や集落活動センターが地域のつながりの重要性を再認識した活動を展開できるよう地域担当職員が協議の場に参画し、共に検討することができました。

1. 法人基盤整備・強化

(1) 理事会

意思決定機関として事業経営を行った。同一労働同一賃金等の働き方改革に向けた規程の整備について、協議検討した。

理事会には、職員も参加し、役職員が課題意識の共有を図った。

<理事会開催状況>

開催日 場 所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和2年 6月3日(水) 津野町福祉交流 センター	第1回理事会 理事 7名 監事 2名 (事務局 3名)	<p><議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成31年度事業報告 ・平成31年度収支決算 ・臨時職員就業規程の一部改正 ・ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付対象事業の承認 ・評議員選任・解任委員の選任 ・評議員会の招集 <p><協議・報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止対策に伴う事業の一部変更
令和2年 10月6日(火) 津野町老人福祉 センター	第2回理事会 理事 8名 監事 1名 (事務局 3名)	<p><協議・報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長職務執行状況報告 ・歳末助け合い事業 ・法人後見業務への取り組み ・同一労働同一賃金への対応
令和2年 10月6日(火) 津野町福祉交流 センター	役職員研修会 「法律講座」 理事 7名 監事 1名 (事務局 7名)	<p>【法律笑講座】</p> <p>講師：須崎ひまわり基金法律事務所 三上弁護士 法テラス須崎法律事務所 武内弁護士、小野弁護士</p>
令和2年 12月14日(月) 津野町総合保健 福祉センター 「里楽」	第3回理事会 理事 8名 監事 2名 (事務局 6名)	<p><議案></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第1次補正予算 ・評議員会の招集 <p><協議・報告></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一労働同一賃金と就業規程 ・歳末たすけあい事業

<p>令和3年 3月17日(水)</p> <p>津野町役場本庁 舎</p>	<p>第4回理事会</p> <p>理事 8名 監事 2名</p> <p>(事務局 6名)</p>	<p>〈議案〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度第2次補正予算 ・就業規程の制定 ・給与並びに旅費等規程の制定 ・非常勤職員就業規程の制定 ・非常勤職員給与並びに旅費等規程の制定 ・育児・介護休業等に関する規程の一部改正 ・令和3年度事業計画 ・令和3年度収支予算 ・評議員会の招集 <p>〈協議・報告〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長職務執行状況報告 ・今後の役員・評議員改選に関するスケジュール
---	---	--

また、会長、副会長は、8月7日ブロック別市町村社協会長等意見交換会に出席し、高幡圏域内の市町村社協、高知県社協との課題共有、情報交換を行った。

(2) 監査

監事は、平成31年度事業及び会計監査を実施し、指摘事項を会長及び事務局へ告げた。同時に監査報告書を作成した上で、理事会で報告した。また、理事の業務執行状況を監査する立場から、全ての理事会に出席し意見を述べた。

定例監査

実施日：令和2年5月27日(水)

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

監査項目：平成31年度事業実績報告書

平成31年度計算書類及び関係書類

中間監査

実施日：令和2年11月5日(木)

場 所：津野町総合保健福祉センター「里楽」

監査項目：令和2年度前期事業及び会計処理

また、監事は、3月25日、総合保健福祉センターでリモートによる市町村社協監事研修会に出席し、地域共生社会と社協に期待される役割、経理規程・県指導監査要領等の講義を受けた。

令和3年2月19日には、津野町による財政援助団体等監査を受けた。

(3) 評議員会

法人運営の基本ルール、体制の決定と事後的な監督を行う議決機関として、定められた事項について決議を行った。評議員は、12名で本年度中の変更はなかった。

<評議員会開催状況>

開催日 場所	会議の名称 出席者数	議 題 及 び 内 容
令和2年 6月19日(金) 津野町老人福祉センター	第1回(定時) 評議員会 評議員 10名 (会長、事務局 2名)	〈議案〉 ・平成31年度事業報告 ・平成31年度収支決算 〈協議・報告〉 ・新型コロナウイルス感染防止対策に伴う事業の一部変更について ・令和2年度第1回理事会報告
令和2年 12月22日(火) 津野町老人福祉センター	第2回評議員会 評議員 11名 (会長、事務局 3名)	〈議案〉 ・令和2年度第1次補正予算 〈協議・報告〉 ・令和2年度前期事業執行状況報告 ・令和2年度第2回理事会報告 ・令和2年度第3回理事会報告
令和3年 3月24日(水) 津野町総合保健福祉センター「里楽」	第3回評議員会 評議員 10名 (会長、事務局 3名)	〈議案〉 ・令和2年度第2次補正予算 ・令和3年度事業計画 ・令和3年度収支予算 〈協議・報告〉 ・令和2年度第4回理事会報告

(4) 評議員選任・解任委員会

選任及び解任について開催の必要性がなく、未開催であった。

(5) 住民会員制度

新型コロナウイルスの影響による収入減世帯等への配慮を行いながら、7月に、町内全域の成人に会員加入のお願いをし、各地区長の協力により、下記のとおりの実績があった。また、特別会員の加入についても格段のご理解をいただき下記のような実績を上げることができた。しかし、感染予防のため地域福

社事業の一部が実施できなかったため、会費を生かしての活用が十分にできなかった。加入状況、使途については、社協だより「あくしゅ」に掲載した。

■個人会員

	会員数（人）	加入戸数（戸）	口数（口）	金額（円）
東地区	1,132	1,000	1,156	578,000
西地区	579	515	582	286,600
合 計	1,711	1,515	1,738	864,600
※前年度	1,763	1,531	1,808	904,400

■特別会員

	団体数	加入口数	金額（円）
町 内	4 5	4 7	235,000
※前年度	4 3	4 5	225,000

（６）事務所と職員体制

本所、西支所及び就労継続支援事業所にそれぞれ職員を下記のとおり配置した。地域福祉の地域担当制及び複数事務事業の兼務による職員体制とした。

＜令和３年３月現在の職員体制＞

本所	事務局長	1 名	西支所	支所長（事務局長兼務）	（1 名）
	※支所長兼務			主任	1 名
	事務局次長	1 名		※自立相談支援員、日常生活専門員兼務	
	※訪問介護事業所管理者、日常生活自立支援			主任	1 名
	事業専門員兼務			※就労継続支援事業管理者兼務	
	主任	1 名		事務職員（臨時）	2 名
	※地域活動支援センター施設長兼務			配食員（非常勤）	2 名
	主幹	1 名		訪問介護員（非常勤）	1 名
	※訪問介護事業所サービス提供責任者			サロン送迎運転（非常勤）	1 名
	主事	1 名		サービス管理責任者（臨時）	1 名
	事務職員（臨時）	1 名			
	訪問介護員（臨時）	1 名		[どんぐり農園]	
	あったかふれあいセンター職員（臨時）	3 名		職業指導員（臨時）	2 名
	地域活動支援センター支援員（臨時）	1 名		生活支援員（非常勤）	1 名
就労継続 支援事業 所	配食員（非常勤）	2 名		送迎運転（非常勤）	1 名
	訪問介護員（非常勤）	3 名		[作業所里楽]	
				生活支援員（臨時）	1 名
				職業指導員（非常勤）	1 名
				送迎運転（非常勤）	1 名

業務項目	正職員	臨時職員	非常勤職員	計
法人運営 地域福祉事業	5.5名	7名	5名	17.5名
介護事業	1名	1名	4名	6名
就労継続支援事業	0.5名	4名	4名	8.5名
計	7名	12名	13名	32名

2. 啓発・福祉教育事業

(1) 社協だより「あくしゅ」、社協リーフレットの発行

「あくしゅ」については、本会の組織や事業報告、経営状況を情報公開し、また、福祉情報、地域福祉活動を地域住民に広く知ってもらうために奇数月1日を発行日として、年間6回発行した。A4サイズ、全6ページカラー印刷の体裁で作成した。

各地区長に協力をいただき、全戸配布を行い、町内の金融機関や公共施設、交流施設等関係機関へも配置をお願いした。ホームページへの掲載も行った。

「社協リーフレット“こんにちは社会福祉協議会です”」については、社協会員募集時（7月）に、社協の事業概要などを紹介したパンフレットを作成し、全戸に配布した。裏面には、「お守りカード」を刷り込んだ。

(2) 子ども福祉・ボランティア活動

■ ボランティア活動・福祉教育推進事業助成金交付事業

津野町内の小、中学校が行う地域でのボランティア活動や福祉教育・伝承活動の取り組み支援することを目的として、本会の会員会費を活用して助成を行った。

＜令和2年度助成先＞

学校名	助成事業内容
葉山小学校	地域との連携交流事業（芋ほり体験、もちつき、学習発表会）
精華小学校	校内美化・栽培活動、地域サロンとの交流事業、いきいき学習発表会、ふれあいもちつき
中央小学校	お茶づくり、米づくり、あったかふれあいセンターとの交流事業
葉山中学校	地域清掃ボランティア活動、高齢者への年賀状送付、人権教育講演会
東津野中学校	神楽の伝承

■福祉教育・ボランティア学習の推進

津野町内の小・中学校のコミュニティスクール、地域学校協働本部の取り組みに参加し、学校及び関係者と連携して福祉活動に取り組んだ。学校関係会議・教職員との打ち合わせの実施及び参加状況は、次のとおりだった。

葉山小学校	8回
精華小学校	1回
中央小学校	9回
葉山中学校	2回
東津野中学校	9回



▲高齢者疑似体験（葉山小学校）



▲地域の人に習ってコマづくり
（中央小学校）

3. 住民主体の福祉コミュニティづくり

(1) 福祉委員活動

東地区 95 名、西地区 69 名の福祉委員が、各地域で活動された。

福祉委員活動の周知と民生児童委員との連携を強めるため、また、コロナ禍にあって地域の中で生活が困難な状況になっているなどの把握が遅れ、支援につながらないことをできるだけ防ぐため、民生児童委員・社協地域担当者の連絡先などを記載したつながるカードをお届けした。小地域ふくし座談会は開催を見送った。

また、福祉委員研修として、法律（笑）講座への参加を呼び掛けた。

(2) 地域サロン

各地区の地域性やニーズに合わせたサロン活動が地域の創意工夫で展開された。一方で新型コロナウイルス感染予防対策に世話人の心理的負担も感じられたため、本会では、特にサロンの運営上の相談を受け丁寧な支援を心掛けた。4 月～5 月、12 月～1 月は感染拡大防止のため、活動自粛を依頼した。4 月～5 月にかけての自粛後の再開時には、各サロンを訪問し、感染予防対策の説明と活動支援のためのマスクを届けた。

<地域サロン 実施状況>

報告サロン数：	29 箇所（東地区 18 箇所	西地区 11 箇所）
	※前年度 29 箇所	
開催回数：	延 462 回（東地区 320 回	西地区 142 回）
	※前年度 601 回	
参加人数：	延 3,579 人（東地区 2,357 人	西地区 1,222 人）
	※前年度 5,067 人	

■お茶会

世話人の情報交換の場として、昼の部と夜の部を開催し、参加しやすい環境設定に努めた。各サロンで課題となっている内容について気軽な話し合い「ちょこっとお茶会」を行った。参加の状況は次のとおり。

<お茶会 実施状況>

開催日：	令和 2 年 7 月 31 日（金）
参加者：	昼の部 4 サロン 9 人
	夜の部 7 サロン 12 人

■世話人研修会

コロナ禍において、サロン活動を安心して楽しく続けていただくために世話人を対象とした講演会を次のとおり実施した。

<講演会 実施状況>

開催日：令和3年2月18日（木）

参加者：15サロン24名

テーマ：「私たちのコロナ対策」

講師：さんすい防災研究所代表 山崎水紀夫 氏

■サロン決算大相談会

地域サロンに対する町助成金の活用方法について問い合わせが多いことから、助成金使途報告書作成時期に合わせ、3日間個別相談会を実施し、各サロンの書類作成を支援した。実施日は、次のとおり。

- ・令和2年4月 8日（水） 14時～16時
- ・令和2年4月 9日（木） 17時～19時
- ・令和2年4月10日（金） 9時～11時

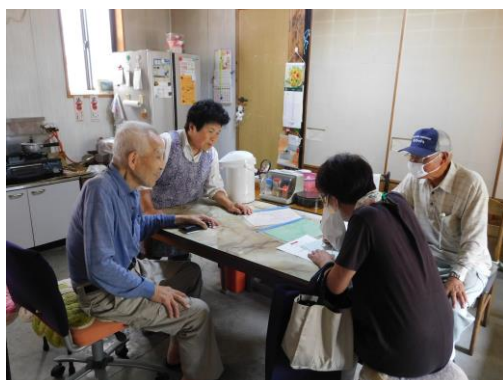
（3）福祉パトロール

町内の70歳以上の一人暮らし高齢者や75歳以上の高齢夫婦世帯等に対して、新型コロナウイルス感染症予防のため、原則民生委員担当地区単位で7月～8月にかけて訪問調査を行った。

郷、船戸、白石地区では、地区住民が中心となってパトロール活動を行った。

<福祉パトロール実施方法、協力者の人数>

- | | |
|-------------------|---------------------------------|
| ○民生委員単独で実施 | 東地区 7名・西地区 4名 |
| ○民生委員、福祉委員で実施 | 東地区 1地区4名
西地区 2地区7名 |
| ○民生委員、地区長、福祉委員で実施 | 東地区 1地区6名 |
| ○民生委員、社協職員で実施 | 東地区 2地区4名
西地区 3地区6名 |
| ○集落活動センターと協働 | 白石地区 15名
船戸地区 13名
郷地区 17名 |



(4) 安心・安全見守り台帳とお守りカード

福祉パトロール実施後、安心・安全見守り台帳の情報から「お守りカード」を作成し、487世帯、646人の在宅一人暮らし高齢者等へ配置した。

(5) あったかふれあいセンター事業

町より受託し、専任の臨時職員3名と兼任正規職員1名(0.5人役)の3.5人体制で事業を実施した。新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、マスクの着用や体温計測等利用のルールを定めるとともに3密の回避や衛生管理に配慮しながら5か所のサテライトで曜日ごとに集いを開催。送迎等の現場スタッフが足りないときには、地域福祉担当職員等が業務を補完した。

また、令和3年度からの2拠点化に向けて町と協議を重ねながら準備にあたった。

[集い]

サテライト 名称	開設 日数	利用者数(延人数)					前年度 利用者数
		高齢者	障がい者	子ども	その他	合 計	
いちょうの郷	37	556	0	0	1	557	673
鶴松の風	37	1,072	0	0	7	1,079	1,427
新田 くつろぎ家	41	640	29	38	9	716	863
いらずの さと	36	509	0	0	3	512	742
せんだん	37	621	16	16	17	670	1,025
合 計	188	3,398	45	54	37	3,534	4,730

[機能別利用者数（延人数）]

集い（再掲）	送迎	相談	訪問	つなぎ	生活支援
3,534	2,110	43	481	37	680

[会議の開催回数]

定例会	運営検討会	ケース検討会	スタッフ会	運営協議会
4	8	7	16	5

※町からの指示による集いの自粛期間

- ①令和2年4月8日（水）～令和2年5月22日（金）
- ②令和2年12月10日（木）～令和3年1月15日（金）



（６）地域福祉活動と地域支援

郷地区、芳生野地区、船戸地区、白石地区、床鍋地区について、地域住民主体の活動推進のため、地区担当職員が地域に入り集落活動センターや地区と連携し、事業推進を図った。



▲芳生野地区

地域情報発信のため日曜市へ参加の様子

4. 助け合い・支え合えるつながりづくり

(1) ボランティア活動・ボランティアセンター

■ボランティア登録

ボランティア活動保険や行事用保険の加入手続き及び活動を希望する人、団体の登録を行った。

○ボランティア登録者の現状

個人ボランティア登録 93 名（東 40 名、西 53 名）

○ボランティア活動保険加入手続き

加入者 9 グループ 173 人

ボランティア行事用保険加入手続き件数 18 件

■ボランティア連絡協議会事務局

町内各種のボランティア関連団体の連絡調整組織として、事務局運営を行った。総会はコロナ対策のため開催せず、文書による表決とした。各加盟団体へのお知らせとして、「ボランティア保険案内」を 1 回発行した。加入団体は、18 団体。

■24 時間テレビ「愛は地球を救う」チャリティキャンペーン

ボランティア連絡協議会を中心として、賛同団体による実行委員会を開催したが、高知放送よりイベント等の自粛要請があったため、2 年度は T シャツの販売と募金の受付のみ、事務局で行った。その他、事務局ではテレビ局との調整、募金の集計送金等を行った。

＜募金の受付等の状況＞

受付期間：令和 2 年 8 月 17 日（月）～8 月 31 日（月）

受付場所：〈東会場〉社協本所（総合保健福祉センター里楽）

〈西会場〉社協西支所（津野町老人福祉センター）

募金送金額： 191,394 円

（２）住民参加型助け合い制度「ほっとサービス」

一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、障がいのある方等の暮らしの支援として住民参加によるサービスを実施した。

＜ほっとサービス 実施状況＞

受付件数１５件 利用実績１４件（東　３件、西１１件）

協力会員：延２５人 稼働時間：延１９時間

- 庭木の剪定、庭掃除…………… ６件
- 粗大ゴミの処理…………… ５件
- 包丁研ぎ…………… １件
- カーテンの洗濯…………… １件
- 障子の張り替え…………… １件

（３）ふれあい配食サービス

一人暮らし高齢者等とのふれあいを目的に昼食を宅配した。東地区では月４回、西地区では、月３回実施した。ボランティア、民生児童委員の全面的な協力を得て、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯等で希望される方に手作りのお弁当をお届けした。



また、住民の方から多くの食材料の提供をいただいた。ボランティア、民生児童委員の配達時には、話し相手や安否確認などもでき心の交流につながった。新型コロナウイルス感染症予防のため、４月３週目から５月末日まで休止した。休止期間中は、利用者及び配食ボランティアに通信やお便りを出した。

＜ふれあい配食 実施状況＞

	配食数（食）	利用者数（人） （４月時点）	調理ボランティア （延人数）	配達ボランティア （延人数）
東地区	2,294	66	270	331
西地区	1,472	49	238	275
計	3,766	115	508	606
※前年度	3,718	109	573	678

(4) 災害ボランティアセンター事業

コロナ禍における災害ボランティアセンターの役割を再認識し、運営委員の共通認識と新たな知識を得るために学習を中心として運営会議を開催した。

○災害ボランティアセンター運営会議

開催日：令和2年7月15日（水）

出席者：22名

内 容：講話「災害ボランティア活動と災害ボランティアセンター」

講師：高知県ボランティア・NPO センター

災害伝言ダイヤル「171」体験

○災害ボランティアセンター運営会議講演会

開催日：令和2年10月28日（水）

出席者：18名

内 容：演題「令和2年7月豪雨被災地支援コロナ禍での課題」

講師：さんすい防災研究所代表 山崎水紀夫 氏

5. 生活課題に向き合う総合相談

(1) 生活困窮者自立相談支援事業

地域の見守りや支援を必要とする人、社会的孤立やその他の自立に関する制度の狭間にある問題など様々な生活課題を抱えている人たちに対して、アウトリーチによる問題発見や個別相談に応じるなど、積極的な相談支援を行った。

支援にあたっては、深刻な状況になる前の発見や地域への参加支援、見守りネットワークづくりを推進するため、地域への働きかけを意識して取り組んだ。

民生児童委員協議会定例会、町関係部署との協議、必要に応じてケース会への参加や同行訪問を行うなど関係者と連携し、継続的支援を必要とする相談ケースに対してはプラン（支援計画）を策定して包括的・伴走型支援に努めた。また、高知県社協の家計相談支援事業、弁護士等の専門機関と連携し、相談者の生活課題の把握・整理から課題解決に向けて取り組んだ。

人員体制	主任相談支援員 1名 ※兼務 相談支援員 1名 ※兼務
新規相談受付件数	37件
プラン策定件数	初回プラン策定件数 4件 再プラン策定及び評価 延件数 11件
支援件数 相談内容	相談者数 延164人 ○電話相談 51件 ○訪問・同行支援 195件 ○面談 118件 ○支援調整会議でのプラン 12件 ○関係機関との協議、代行支援等 47件 相談内容内訳（延件数 45件） ○収入、生活費、債務処理等金銭に関すること 23件 ○病気や健康・障害、生活に関すること 12件 ○仕事探し、就労に関すること 3件 ○地域や知人との関係 5件 ○引きこもり、不登校 1件 ○食べる物がない 1件

■法律講座・弁護士相談会の開催

住民が法律を身近に感じ問題解決の知識を得ることと、弁護士相談会の啓発のために、法律(笑)講座を開催した。

また、法律の専門的な対応が必要なケースなどの問題解決のために法テラス弁護士事務所およびひまわり基金法律事務所の協力を得て、個別相談会を初めて開催した。



▲法律（笑）講座中の寸劇

法律(笑)講座

実施日 令和2年10月6日(火)
場 所 津野町福祉交流センター1F ホール
参加者(住民) 38 人
協 力 法テラス須崎法律事務所 武内良平 弁護士
小野 歩 弁護士
須崎ひまわり基金法律事務所 三上翔平 弁護士

弁護士相談会

① 令和2年10月27日(火)

場 所 津野町総合保健福祉センター「里楽」
相談件数 5 件
対応弁護士 法テラス須崎法律事務所 小野 歩 弁護士

② 令和2年10月29日(木)

場 所 津野町老人福祉センター
相談件数 6 件
対応弁護士 須崎ひまわり基金法律事務所 三上翔平 弁護士

■若者サポート会議

引きこもり傾向のある若者支援のために、若者サポートステーション、教育委員会、町健康福祉課、介護福祉課と協力体制をとり、定期的(3回)に関係者会議を開催した。

また、家族支援を視野に入れ、引きこもり若者の親の茶話会を開催し、当事者1名の参加があった。

■フードドライブ活動

県下で展開される食料支援のための活動に参加し、住民への呼びかけを「あくしゅ」や本所、支所の窓口で行った。また、役場職員の協力も得て、多くの食料品のご寄付を頂き、必要な方への食料提供活動を行った。食糧支援は、43件(12名)だった。

フードドライブ活動に併せて、不織布マスクや布マスクの提供も多くいただき、困窮世帯や学校などへ提供することができた。

(2) 福祉サービス利用援助事業

日常生活を送る上で、自分ひとりでは判断することが難しい高齢者や障がい者が安心して生活が送れるように、福祉サービス利用援助と日常的な金銭管理、暮らしのアドバイスをを行った。

支援にあたっては、利用者の自己決定を尊重しながら、専門員と生活支援員が連携し、事業を実施することにより利用者の在宅生活を支援した。

成年後見制度への移行が必要な場合の対応として、法人後見受任に向けて、積極的に研修会や情報交換会に出席した。

<支援の状況>

令和2年度末現在契約件数	4 件
生活支援員による支援回数	4 3 回
専門員による直接支援回数	5 8 回

(3) 生活福祉資金貸付相談制度

新型コロナウイルス感染症の影響により休業や失業で生活に困っている世帯へ緊急小口資金、総合支援資金特例貸付の相談、申請援助を行った。

高知県社会福祉協議会との契約によって借受世帯に対する償還支援を実施した。特に、生活困窮者自立相談支援事業とも連携し、貸し付けに関する相談にも応じた。

<相談・支援の状況>

令和2年度末現在借入件数	3 9 件
令和2年度新規貸付	2 5 件
┌	
・ 緊急小口資金	2 件
・ 緊急小口資金（特例貸付）	1 3 件
・ 総合支援資金（特例貸付）	1 0 件
・ 総合支援資金延長貸付	2 件
└	
借り受けに関する相談件数	4 7 件
償還指導	1 件

6. 在宅介護・在宅支援事業

(1) 介護保険サービス「訪問介護事業」

居宅サービス計画に沿った訪問介護計画の作成を行い、利用者とのコミュニケーションを大切にして計画に基づいたサービスの提供を行った。

ケース検討会を定期的に行い、情報を共有することによって統一したサービスを提供することができた。新型コロナウイルス感染症の影響により外部研修会への参加ができなかったが、事業所内で感染症対策について2回勉強会を行い、対策を講じた。

<利用実績>

月	利用者数（実人員）		稼働ヘルパー数 （実人員）
	2年度	※前年度	
4月	10	15	4
5月	10	15	4
6月	10	13	4
7月	11	14	4
8月	11	13	4
9月	11	11	4
10月	11	11	4
11月	12	11	4
12月	13	12	4
1月	12	12	4
2月	12	10	4
3月	8	10	4
合 計	延131	延147	延48

<サービス内容別提供数>

サービス内容	提供回数(回)		延時間（時間）	
	2年度	※前年度	2年度	※前年度
身体介護	491	671	317	402
生活援助	67	810	67	744
身体＋生活	115	137	115	137
介護予防・総合	276	178	276	178
合 計	949	1,796	775	1,461

(2) 介護保険サービス「訪問入浴介護事業」

当初は、利用者はいなかったが、1月よりサービスを再開した。居宅介護支援事業所と情報共有することによって安心、安全に入浴サービスを提供することができた

＜利用実績＞

利用者数：1人

サービス提供回数：10回（前年度17回）

(3) 福祉用具貸与・介護用品あっせん事業

通院時や外出時などに貸し出す車いすの短期利用および外泊時のみの電動ベッドについては無料で貸与した。ベッドの搬出入は、本会事務局で行った。

介護用品の斡旋については、本会事務局で相談を受けながら対応した。利用相談及び貸し出しが増えているベッドについては、希望に添えるよう1台購入した。

＜利用実績＞

所有用具	貸し出し利用人数		
	長期	短期	※前年度
電動ベッド	18	2	長期 15 短期 1
車椅子	12	25	長期 8 短期 39

(4) 生活支援型配食サービス

町からの受託事業として実施。ケア調整会議で必要と認められた方へ昼食を配達した。全町で毎日型の配達を実施した。普通食は、町内飲食業者、特別食は、特別養護老人ホームに調理を委託し、配達は大協職員が対応した。安否確認や必要がある場合には、関係機関への連絡等、在宅生活の継続を支援した。

＜利用実績＞

区分	利用者数（人）	提供食数
特別食	7	948
普通食	14	2,017
計	21	2,965（前年度 3,618）

7. 障がい者地域生活支援

(1) 地域活動支援センター

町内の障がいのある住民が交流活動やレクレーションを通じて、地域との交流や仲間づくりを行うために、「わきあいあい広場」を実施した。また、集団生活になじみにくかったり、少人数でサポートすることが必要な障がい者を対象に生活の訓練などを行う「わきあいあい広場ミニ」を実施した。

また、支援ボランティアとミーティングを行い、障害の理解や個別支援について話し合った。

ご本人や家族の抱える困りごとに対応するため支援員が在宅訪問を行い、生活状況把握や悩み事を聞かせていただき、関係機関と共に情報共有した。

学校の長期休暇期間中には、障がい児童、生徒対象に「障害児長期休暇支援事業」を実施し、関係者及び支援ボランティアの協力を得て、子どもたちの様々な体験や遊びの場を提供し、楽しい休暇を過ごしてもらうことができた。

■わきあいあい広場

町内の障がい者の交流の場として毎月実施した。4，5月は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送った。

参加を通して、社会生活の幅が広がり、日常生活の中でも声掛けがきる仲間となってきた。

<内容と参加状況>

実施日	内 容	参加者数（人）	
		障がい者	ボランティア 社協職員
6月24日	レクレーション（バドミントン・卓球等）	6	8
7月 5日	調理・カラオケ	10	3
8月26日	調理・お出かけ（雲の上の図書館）	8	3
9月29日	調理・レクレーション（卓球・バレー等）	8	4
10月21日	調理・陶芸教室	5	2
11月13日	調理・室内ゲーム（輪投げ・パズル等）	8	3
12月 7日	調理・ケーキ飾りつけ・クリスマス会	10	5
1月20日	調理・室内ゲーム（トランプ・オセロ等）・おやつ作り	4	6
2月16日	調理・おやつ作り	8	5
3月13日	調理・次年度話し合い・町内散策	8	6
合 計		75	45
※前年度		96	62

■わきあいあい広場ミニ

日中の居場所を確保し、自分のペースで社会的な体験ができる場として、実施した。集団の中では対応できにくい個性と障害特性への配慮をしつつ生活課題に向き合い、調理や作業など利用者主体の活動となるよう個別支援を行った。

<内容と参加状況>

実施月	内 容	利用者数 (人)
4 月 (2 回)	調理・座談	4
5 月 (2 回)	手芸・座談	4
6 月 (3 回)	買い物・手芸・お菓子作り	5
7 月 (3 回)	調理・手芸・スマホ教室	4
8 月 (1 回)	調理	1
9 月 (3 回)	調理・座談・お菓子作り	4
10 月 (4 回)	調理・買い物・手芸・お菓子作り	7
11 月 (2 回)	調理・手芸	5
12 月 (4 回)	調理・買い物・手芸・お菓子作り	10
1 月 (2 回)	手芸・座談・買い物	4
2 月 (2 回)	手芸・座談	2
3 月 (3 回)	調理・手芸・ひなまつり見学	8
計 (31 回)		58

■生活相談事業

在宅で暮らされている障がいのある方々のうち、町より訪問依頼のあった方に支援員が訪問し、生活状況の聞き取りを行った。必要なケースについては、町や保健師に相談し、つないだ。

<訪問実績>

訪問者数： 10 人
訪問回数：延 16 回

■障害児長期休暇支援事業

保健師等町関係者との協議や関係学校との連絡をとりながら、子どもたちが楽しい休暇を送れるよう支援した。地域住民、支援ボランティアの協力を得て実施した。

＜内容と参加状況＞

実施日	内 容	参加者数（人）		
		児童・生徒	ボランティア	職員 (町・社協)
8月3日	天狗高原散策・川遊び	7	9	7
8月4日	天狗高原散策・宿題・川遊び	8	5	6
8月5日	宿題・調理・陶芸教室	8	7	7
8月6日	宿題・調理・陶芸教室	9	3	9
8月7日	宿題・科学実験・歯科教室・読み聞かせ・自由遊び	6	6	4
8月11日	宿題・レクリエーション・音楽療法	15	2	10
8月12日	宿題・ピザ焼き体験・川遊び	17	5	11
8月13日	宿題・科学実験・歯科教室・自由遊び	10	2	8
8月17日	宿題・書道教室・水遊び	6	4	7
8月18日	宿題・書道教室・水遊び	7		8
8月19日	宿題・消防署見学・読み聞かせ・レクリエーション	7	3	7
8月20日	宿題・消防署見学・レクリエーション	7		6
1月6日	宿題・調理・レクリエーション	14	3	5
3月26日	宿題・調理・お花見（駄場公園）	12	2	5
合 計		133	51	100
※前年度		162	47	96

（２）障害福祉サービス「居宅介護」

在宅生活、地域生活を送るために、利用者の身体機能や心に合わせたサービス提供に努めた。ヘルパー間の情報共有やケース検討の場をもち、利用者とのコミュニケーションをていねいに行うことにより、利用者に寄り添ったサービスを提供することができた。

サービスの質を高めるために、町相談支援事業所、サービス関係スタッフとのケース会議に出席した。特に、本年度は新型コロナウイルス感染対策について事業内で勉強会を行った。

＜利用実績＞

利用者数：7人

サービス提供時間：431時間（前年度411時間）

（3）移動支援事業

外出のための移動に困難がある障がい児・者の日中の地域での自立生活及び社会参加を促すことを目的とする事業で、町より受託し、介護職員による移動支援を行った。

＜利用実績＞

利用者数：1人

サービス提供日数：4日（前年度23日）

サービス提供時間：24時間（前年度82.5時間）

8. 就労継続支援（B型）事業所

（1）経営

障害福祉サービス就労継続支援（B型）事業所として、どんぐり農園 グリューネ・作業所里楽を一体的に運営した。新型コロナウイルスの感染予防を行いながら、両作業所のスタッフ間の連携をはかり、協力をして事業所運営にあたった。また、施設外就労も今年度から実施した。

（2）利用者の状況と支援

新規利用者が2名あったが、2名退所（内1名は、一般就労）され、年度末現在の利用登録者数は23名となった。

支援については、町相談支援事業所と月2回の連絡会やケース会議等へも積極的に参画した。個別支援会議及びモニタリング会議等により、個人の能力や心理、体調等状況把握を行いながら個別支援計画を作成した。

また、町自立支援協議会の就労支援部会に出席し、就労に関する情報共有や一般就労への取り組みなどについて協議し、企業見学会を開催するまでに至った。事業所で一般就労を希望している4名の利用者が町内の企業4社の企業見学会へ参加した。

（3）作業と売上げ

授産事業では、どんぐり農園のハナニラの販売、花苗の販売及び町内の花壇や公共施設へ出荷した。作業所里楽では、クッキーを高知市や須崎市の医療機関や量販店で販売した。両事業所とも直販所へ精力的に出品した。また、町受託事業が2か所増えた。

新型コロナの影響でイベントや研修会などが中止もしくは規模縮小のため、販売活動に影響が出たが、売上は微減であった。

売上げは、どんぐり農園では、花、ハナニラ、苗木、クリスマスツリー、町からの清掃作業受託などによる収入で、作業所里楽では、クッキー、パウンドケーキ、カップケーキ、喫茶、自動販売機等の売上げと町の清掃作業受託による収入となった。

（4）研修

新型コロナウイルス感染状況を勘案し、どんぐり農園、作業所里楽の両作業所では一泊研修を中止した。社会見学は、感染予防対策が可能な範囲で実施した。

＜利用実績＞

月	利用者数 (実人員)	利用者数(延人員)	内 訳	
			どんぐり農園	作業所里楽
4 月	25	363	135	228
5 月	24	339	121	218
6 月	24	408	143	265
7 月	23	369	138	231
8 月	23	315	129	186
9 月	23	325	121	204
10 月	23	368	140	228
11 月	23	330	124	206
12 月	22	346	128	218
1 月	22	304	117	187
2 月	22	283	105	178
3 月	22	404	150	254
合 計	276	4,154	1,551	2,603
※前年度	265	4,273	1,584	2,689

＜販売活動の実績＞

8 月・・・町内教職員研修会

10 月・・・老人大学

11 月・・・町健康ふくし啓発週間

通年・・・ふくし交流プラザ、須崎市量販店、高知市内病院、町内販売
あったかふれあいセンター

9. 共同募金事業、日赤事業

(1) 共同募金、歳末たすけあい募金の募集と助成

共同募金推進計画に基づいて募金活動をそれぞれ行った。

戸別募金では各地区長の全面的な協力で募金活動を実施し、歳末たすけあい運動は、産業祭中止のためイベントは行わなかった。

<募金活動、助成事業状況>

赤い羽根共同募金

募金実績額： 1,210,888 円

本会で受けた助成額： 766,000 円

助成事業：ふれあい配食サービス、福祉パトロール
社協だより「あくしゅ」発行

歳末たすけあい募金

募金実績額： 50,000 円

本会で受けた助成額： 166,411 円

助成事業：年末特別配食

(2) 歳末たすけあい助成事業「歳末特別配食」

歳末たすけあい運動の活動は、新型コロナウイルス感染症予防のため、多くのボランティア参画によるおせち料理ではなく、町内の飲食業者に依頼した五目ずしを民生児童委員、社協職員によって配達した。対象者には、高齢者世帯に生活困窮等で支援を行っている方や民生児童委員の気になる世帯も加えて訪問した。

<実施状況>

実施日 令和2年12月25日

配食数 364 食 (312 世帯)

(東地区 191 食、西地区 173 食)

配達ボランティア 延 25 人

(東地区 13 人、西地区 12 人)

(3) 日赤（日本赤十字社）事業と活動資金募集

赤十字事業の啓発に努め、その活動資金の募集を5月の「赤十字会員増強月間」に行った。各地区長の協力で次のとおりの実績があった。

<資金募集活動実績、現在積立金額>

目標額 838,000 円

実績額 937,700 円

災害積立金 205,571 円

10. 福祉団体の活動支援

各団体の事業計画に基づき、役員を中心とした事業運営が円滑に行われるよう支援した。事務局として活動した団体は、次のとおり。

(1) 民生児童委員協議会 事務局

本会と協働しながら、福祉パトロール、安心安全見守り台帳作成等に主体的に関わり、調査、調整、学習活動等を行った。

毎月の定例会開催や学校訪問の調整、会計事務、各種研修会への参加調整、研修事業調整など事務局業務を行った。

(2) 老人クラブ連合会 事務局

コロナ禍にあって、感染防止に努め、中止や規模を縮小させながら、事業に取り組んだ。

3 B体操の講習や体力測定、グラウンドゴルフ、ボッチャ、ウォーキングなどの健康づくり活動、陶芸教室や老人大学、地域支え合い研修会などの教養活動などについては、感染対策を行った上で実施した。

事業の計画、実施に関しては役員を中心に取り組み、事務局としては単位クラブとの連絡調整、町や高幡・県の老人クラブ連合会との調整を行った。

(3) 障がい（児）者連合会 事務局

新型コロナウイルスによる影響で、予定していたほとんどの事業が実施できなかった。そんな中でも他団体、会員同士の交流に繋がればと計画にはあげていなかった老人クラブと合同のボッチャ交流会を開催した。事務局として、事業の調整、周知とりまとめ、会計事務など行った。

(4) 母子寡婦団体「ひまわりの会」事務局

活動費を得るために“めんつゆ”等の販売の支援を行い、会員同士の交流を実施した。事務局として、12月末で活動休止する意向を受けて、解散のための事務処理を行った。

(5) シルバー介護士会「ひだまり」事務局

一人暮らし高齢者等の在宅訪問活動が定期的（月1回）に実施できるよう、訪問世帯の調整や訪問時の送迎支援を行った。